

Oracle Autonomous Data Warehouse Cloud



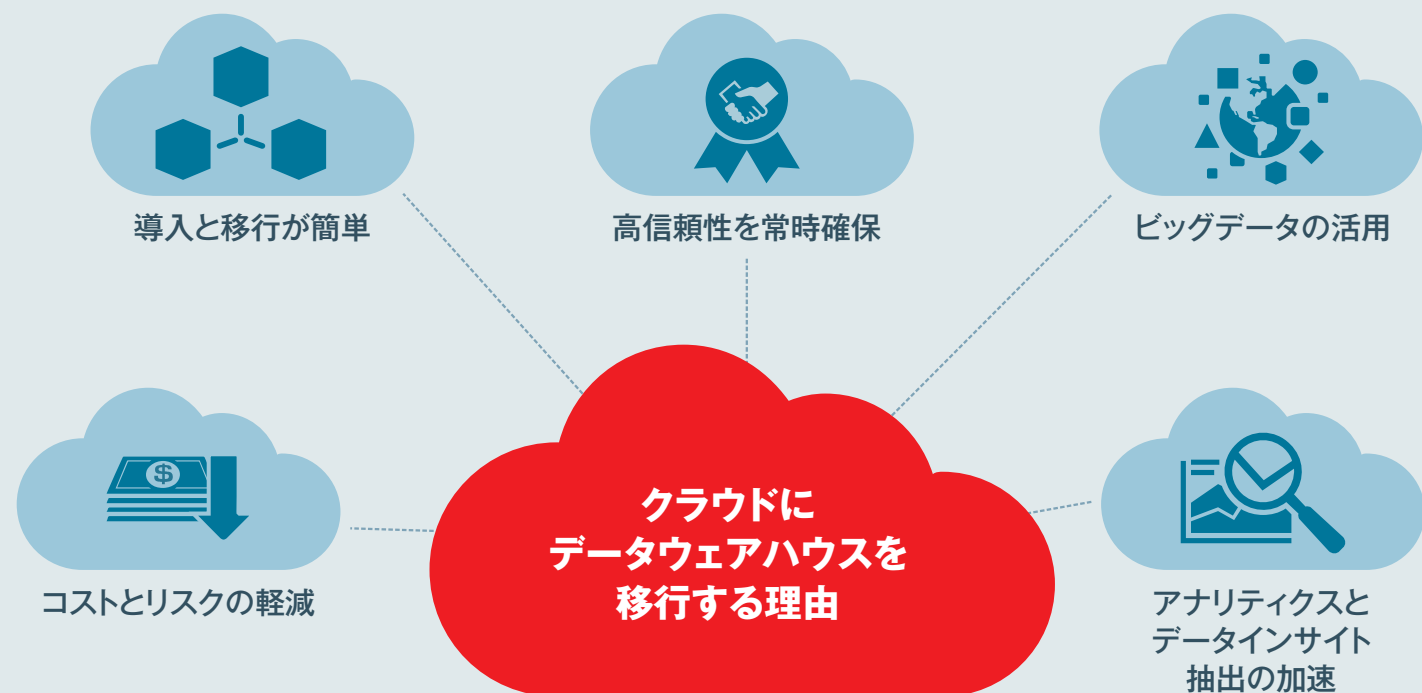
Oracle Autonomous Data Warehouse Cloudで、コスト削減や信頼性とパフォーマンスの向上を実現し、データの価値を高める

最先端の企業や組織は入手したすべてのデータを、アナリティクスによって差別化して有効活用することで、競争力を高めています。また、データ管理機能のモダナイゼーションを行うことによって、データセントリックな環境作りを目指している企業も存在します。しかし、そうした基盤を構築する際には、「急増する大量のデータを管理する」という困難な作業も伴います。

今日のデジタル環境ではデータが爆発的なスピードで増加しており、IoTによるセンサーデータの活用等、さらなるデータ増が予想されています。従来型の物理的なデータウェアハウスは、全社を通じた分析の用途にデータを収集するには適していません。しかし、そこで利用されていたよ

うなストレージやコンピューティング・リソースでは、今後の爆発的なデータ増に対応することができません。さらに、パッチの適用や更新、アップグレードといった面倒な人手による作業には、人的エラーによるリスクも伴います。リスクやコスト、手間を軽減し、価値創出のスピードアップを実現するため、多くの企業がデータウェアハウスをクラウドへと移行しています。プライベートクラウドでのローカルなホスティング、パブリッククラウド・サービスへのアウトソーシング、あるいは両者を組み合わせた場合でも、クラウドを利用することで管理をシンプルにし、スケーラビリティの向上やパフォーマンス保証による可用性向上、そして、データ処理と保管に関する新たなコスト削減が実現されるのです。

クラウドにデータウェアハウスを移行する理由



データウェアハウスのクラウド化: 一般的な利用事例

入力されるデータ量が増え、その増加のスピードも著しく加速している中、データマート、エンタープライズ・データウェアハウス、アナリティクス・システムには、そうした状況に対応する能力を強く求められています。対して、従来のデータウェアハウス・クラウド・ソリューションは、そうしたニーズに応えられるのでしょうか。企業の多くは、データウェアハウスをクラウド化してその価値を実感しています。利用者ごとに与えられるサンドボックス(検証環境)や部署ごとのデータマート、データベースのバックアップにおけるクラウド活用はその一例です。さらに進んだ、収益化を成し遂げている事例としては、高性能なデータ管理プロジェクト、クラウドコン

ピューティング・アナリティクスを利用したデータウェアハウス、クラウド上でのビッグデータ活用なども挙げられます。

オラクルが提供している画期的なOracle Autonomous Data Warehouse Cloud Serviceは、他のサービスでは得られない、高い信頼性を備えた業界初のソリューションとして、優れたビジネスインサイトを提供しています。完全に自動化されたこのデータベース・クラウド・サービスは、自動チューニング、事前構成機能を備えており、パッチやアップグレードを自動化することが可能です。これによってエラーが発生しやすい手作業での管理処理を回避できるようになります。

オラクルの総合的なクラウドプラットフォームの一般的な使用事例

オンプレミスのデータハウス
またはデータマート



分散化された
データソースの一元化



新しい
データソースの統合



クラウドへの移行



高性能な
アナリティクス



データウェアハウスに
ビッグデータを提供



サードパーティのBIと
アナリティクス・アプリケーション

新たな収益化の機会



Oracle Autonomous Data Warehouseの導入

Oracle Autonomous Data Warehouse Cloud Serviceは、機械学習によって自動的にチューニングを行い、パフォーマンスを最適化します。AI(人工知能)を利用した次世代のOracle Autonomous Databaseテクノロジーを活用しており、これまでにない高い信頼性とパフォーマンスを享受できるようになります。また、順応性に優れたデータ管理機能を備えており、データウェアハウスの導入も数十秒で完了します。



Oracle Autonomous Data Warehouseの利点

簡単



- システムの稼働中であってもパッチの適用や、チューニング、アップグレードの完全な自動化を実現、エラーの発生しやすい手作業での処理が不要になります。
- 最適化/事前構成済みのため、データウェアハウス・クラウドサービスを最速で15秒で完了できます。
- データセンターのインフラストラクチャやITスタッフの増員に投資することなく、既に所有しているデータを使って、すぐにアナリティクスを実行できます。

高性能



- AIを使用した次世代のクラウド・データベース・プラットフォームに基づいています。Oracle ExadataによるEngineered Infrastructureによって、機械学習を使用したアダプティブ・キャッシングやインデックス処理も可能です。
- Oracle Autonomous Data Warehouse Cloud Serviceは、AWSのサブスクリプション料金の5~8分の1のコストで、また、AWS Redshiftの8~14倍のスピードでデータ処理が行えます。オラクル^{※1}であれば、Redshiftの場合、10時間要した作業を1時間で終えることができます。
- 機械学習によってインデックス処理とキャッシングを自動的に最適化、CPUの消費量を削減するなど、AWS Redshiftに対して優位性を提供します。

優れた順応性



- オラクルのサービスであれば、構成済みのコンピュートおよびストレージリソースをきめ細かく調整できます。これにより、個別に規模の拡大/縮小が可能で、使用していないクラウドリソースの固定ブロックに高額な費用を支払わずに済みます。

高信頼性を常時確保



- 内蔵された機械学習テクノロジーにより、手作業でのエラーを回避し信頼性を向上させます。さらに、無制限の同時アクセス機能と高度なクラスタリング・テクノロジーを組み合わせることで、システムを停止させることなく、データストアを拡張できます。

※1 AWSのほうが5~13倍コストがかかることを実証したLarry Ellisonによるデモ・ビデオ(17:25)
<http://video.oracle.com/detail/videos/featured-videos/video/5599577320001>

主な機能 — 手頃で、機能が豊富な、完全なマネージドサービスをクラウドで実現



高性能なクエリと同時ワークロード

事前構成済みのリソースプロファイルによって各種ユーザーに対応して、クエリパフォーマンスを最適化



瞬時に障害に対応できる弾性

事前構成済みのコンピュートとストレージにより、ダウンタイムなく瞬時に拡大／縮小可能



Oracle SQL

Autonomous Data Warehouse Cloud Serviceは、Oracle Databaseに対応しているあらゆるビジネス・アナリティクス・ツールとの互換性を保有



WebベースのSQLツールを内蔵

Webブラウザからすぐに実行可能なApache Zeppelinベースのノートブック



自動的に稼働

完全に自動化されたデータベースにより、稼働、チューニング、修復、セキュリティ確保も自動化



データベース移行用ユーティリティ

専用のクラウド対応移行用ツールによって、Amazon Redshift、SQL Server、その他のデータベースから簡単に移行可能



クラウドベースのデータ読み込み

Oracle Object Store、AWS S3、またはオンプレミスから高速かつスケラブルな方法でデータを読み込み可能



エンタープライズ・グレードのセキュリティ

セキュリティパッチを自動的に適用。デフォルトでクラウド内、および通信中、保管中のデータを暗号化

Oracle Data Warehouse導入の選択肢

オラクルはお客様のデータウェアハウスをオンプレミスからプライベート／パブリッククラウドに移行するための多種多様なサービスを提供しています。



Exadata
(オンプレミス)



Exadata Cloud
@ Customer



Exadata Cloud
Service



Autonomous Data
Warehouse Cloud

	Exadata (オンプレミス)	Exadata Cloud @ Customer	Exadata Cloud Service	Autonomous Data Warehouse Cloud
最適化されたハードウェア構成	Yes	Yes	Yes	Yes
ライセンスモデル	購入済み	サブスクリプション	サブスクリプション	従量制
データベース自動化	No	Yes	Yes	Yes
配置場所	オンプレミス	オンプレミス	Oracle Public Cloud	Oracle Public Cloud
データウェアハウス用に事前最適化	No	No	No	Yes
完全なマネージドデータベース	No	No	No	Yes

クラウド内で真の Enterprise Data Warehouseソリューションを実現

現在いくつかのベンダーがデータウェアハウス・クラウドサービスを提供していますが、この種のサービスは旧式で使いにくいだけでなく、エンタープライズ規模の要件に対応できず、導入の選択肢も限られています。

次世代のAutonomous Data Warehouseを提供できるのはオラクルだけです。機械学習に基づく次世代のOracle Databaseは、完全に自動化されています。これにより人的エラーを解消し、クラウド環境において、過去にない高いパフォーマンス、セキュリティ、信頼性を実現します。Oracle Autonomous Data Warehouseは比類なき柔軟性とエンタープライズに対応可能な規模、シンプルさを兼ね備えた、データベーステクノロジーで、業界をリードしています。

Oracle Autonomous Data Warehouseを利用することで、企業はデータをすぐに有効活用できるだけでなく、効率的な管理も行えるようになります。Oracle Cloudはオープンな環境なので、企業は真のハイブリッドクラウド・モデルでサービスを利用することが可能となります。また、サードパーティのアプリケーション、ツール、あるいはオープンソースのHadoopソリューションにも対応しています。オラクルのData Warehouse Cloudソリューションは完全に統合されたクラウド環境をはじめ、業界で最も優れたデータベース、総合的なクラウドプラットフォーム、豊富な選択肢によってもたらされる多彩な機能群を組み合わせることで、企業に適したクラウド環境への移行をサポートいたします。

企業にとってのメリット



アナリティクスのための 完全なソリューション

単独のプラットフォームを用いて、全社を通じたあらゆるデータタイプでのクエリが可能です。Oracle Autonomous Data Warehouse Cloud Serviceを使用すれば、数回クリックするだけでクラウドにデータを読み込み、分析できるようになります。これにより、データインサイトをすぐに入手し、重要な意思決定をリアルタイムに下すことが可能です。



簡単な移行

データウェアハウスやデータマートを、簡単にData Warehouse Cloudソリューションに移行できます。Oracle SQL Developerにより、数回クリックするだけでデータをクラウドに移行可能です。クラウドに対応したMigration Workbenchツールによって、Amazon Redshiftを含む主要なデータベースプロバイダーからの移行を支援します。

コストとリスクを軽減

Amazon RedshiftからオラクルのAutonomous Databaseへ移行することで、データベースの可用性を向上させると同時に、コストも半減されます。



既存の投資を保護

Oracle Cloudはオンプレミスのオラクルのデータマネジメント・ワークロードと100%の互換性があるため、企業はこれまでの投資やスキルを活用できます。一方、Amazon Redshiftの場合は、コードを完全に変更し、アプリケーションの整合作業をやり直す必要があります。



オラクルはデータウェアハウスソリューションのマーケットリーダーです^{※2}。Oracle Autonomous Data Warehouse Cloudによって、非常に可用性の高いソリューションをシンプルかつ簡単に企業に提供することができます。また、オラクル以外では得られない、高いパフォーマンス、セキュリティ、そして価値を享受することが可能です。

オラクルのソリューションによって、企業は様々な方法でクラウド型のデータウェアハウス・ソリューションを導入することができます。そして、オラクルのソリューションを利用することで、これまで投資し続けてきた設備や環境を維持しながら、最も価値のある資産、すなわちデータを収益化させるための新たな可能性を獲得できるようになるのです。

Oracle Cloud Platformに関するご案内:

- オラクルが提供している各種のクラウドサービスを無料でお試しいただけます。
https://cloud.oracle.com/ja_JP/tryit
- Autonomous Data Warehouse Cloudの詳細(英語)
https://cloud.oracle.com/en_US/datawarehouse
- Oracle Cloud Platformの詳細
<https://www.oracle.com/jp/cloud/platform/overview/index.html>

※2 ガートナー社の調査レポート「Magic Quadrant for Data Management Solutions for Analytics」
<https://www.gartner.com/doc/reprints?id=1-3T5J67S&ct=170209&st=sb>



Copyright © 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本書は情報提供を目的としてのみ提供されているため、内容は予告なく変更することがあります。本書の内容に間違いがないことは保証されていません。また、口頭で明示的に伝えられたものや、販売可能性や特定目的への適合性に関する暗黙の保証や条件など、法律で示唆されたものを含む、あらゆる保証や条件の対象とはなりません。本書に関するあらゆる責任を明確に放棄します。また、本書によって直接的または間接的に契約義務が作成されることはありません。事前の文書による許可なく、本書の複製や転送を行うことは、その形態、電子的または機械的な方法、目的に関係なく禁止されています。

*OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

IntelとIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。SPARCのすべての商標はSPARC International, Inc.の商標および登録商標に基づき使用しています。AMD、Opteron、AMDのロゴ、AMD Opteronのロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXはThe Open Groupの商標です。

Copyright © 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

日本オラクル株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター
oracle.com/jp

お問い合わせ窓口



TEL 0120-155-096

受付時間 月～金 9:00-12:00/13:00-18:00 (祝日および年末年始休業日を除きます)

URL oracle.com/jp/contact-us